

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102517		
法人名	(有)花もめん		
事業所名	グループホームクオン		
所在地	熊本市西区二本木5丁目2-10		
自己評価作成日	2022年1月18日	評価結果市町村受理日	令和4年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1
訪問調査日	令和4年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の自己決定ができるよう尋ねる会話を行っている。また、利用者様が穏やかに生活が送れるよう、足音を立てないよう、大声で呼ばず、冷静な対応ができるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から2年目で新型コロナウイルス感染症が拡大したため、利用者は入居後、家族との交流や馴染みの人に会えず、外出もできず、ストレスの多い状況となっている。管理者のリーダーシップのもと、職員は明るく振舞い日常的に近くのバス停まで散歩に出かけたり、敷地内の駐車場に椅子を出して日光浴をするなど、外気を味わい、季節を感じられるように今出来る支援を精一杯行っている。コロナ収束を待って、熊本城や熊本新港、お花見等、楽しいドライブを実施したいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践できるように努めている	毎朝、朝礼時に法人の経営理念を唱和している。グループホームとしての理念「家温・久遠・最音」を表明しているが、職員間での理解・共有は十分とは窺えなかった。	唱和することに加え、理念に込められた思いを話し合い、十分理解してケアの拠り所となるような取組を行うことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナが原因で交流できていない	開設から間もなく新型コロナウイルス感染症の感染拡大となったため、外部との交流はほとんど出来ていないが、町内会に加盟し、回覧板を回す役目などは行っている。コロナが収束した際は、まず、グループホームの存在・役目等を地域の人々に知っていただくための活動を行いたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にて報告しているが、話し合いは出来ていない	運営推進会議は、自治会長・民生委員・地域包括支援センター・地元の社協会長・利用者家族で構成されている。コロナ禍のため、対面会議の開催を控え、資料配布のみとなっている。	配布資料に対する質問・意見・コメント等が出しやすいように、意見書や返信用封筒を資料と共に送付することも良いと思われた。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる	コロナ感染症対応の為、職員の配置に困難が生じた際や、抗原検査キットの熊本市からの提供等についてや、その他質問・相談へは、その都度適切な回答が得られている。相談しやすい環境となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間一人対応のため、夜勤時間帯については玄関の施錠をしている	過去数回、入居者の離設を経験しており、その都度、カンファレンスで原因や対策を検討し、対応に取り組んでいる。令和2年度、身体拘束について内部研修を実施している。今後は、「身体的拘束等の適正化委員会」を定期的に開催するとともに、継続した職員研修の実施で身体拘束をしないケアへの意識醸成が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	できている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度等を学ぶ機会は持っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できている	家族による日用品の持ち込みや、衣替えの機会には、管理者やユニットリーダーが家族と会話して入居者の近況を伝え、要望を聞き取ることにしている。また、毎月、入居者のホーム内での写真や印刷物を家族に郵送して報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者まで意見等を受けた場合は所長へ報告し提案している	毎朝、ユニットごとに10分間のカンファレンスを実施し、様々なテーマで話し合い、検討する機会を確保している。必要に応じてユニットリーダーが管理者に報告し、更に所長に報告する仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていることができている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流はあまりできていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーション等も用いて生活の中で関係性を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	開設後間もなく感染症が拡大したため、家族との面会が窓越しであったり、オンライン使用であるため、関係継続支援は難しい状況にある。	家族背景や生活歴等の情報を活用して入居者との会話を大切に、家族や知人等についての話題を取り入れるなどして、会えない状況下での関係継続支援の工夫も期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したら、その後のフォローは行っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている	入居者の自己決定を大切にしたケアの実践を目指している。排泄や入浴に関しての声掛けでは、意思の確認を大切にしたいとしている。言葉での表現が難しい人には、ジェスチャーや、頷き・動作でコミュニケーションを図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いを元に介護計画を作成している	入居者の担当職員は3か月ごとにアセスメントを実施して、ケアマネジャーに提出している。ケアマネジャーは、ケアプランの見直しにあたっては、職員参加のカンファレンスで検討し、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を活用することで情報の共有ができています。職員間での情報共有し、計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協働はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療を受けている。	全ての入居者が訪問診療を受ける体制がとられている。状態急変や緊急時は、主治医に連絡をとり、指示を仰ぎ対応をとることになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいないが訪問診療時の看護職との関わりはできている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に対応し、つとめている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を立て、それをもとにケアを行い、支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合おける指針」について説明し、終末期を迎える前に「看取り指針」で、再度家族の意思確認を行い同意を得て、終末期ケアを行うこととしている。今年度、ホームで初めて入居者の看取り介護を経験している。看取り後、家族から感謝の言葉が伝えられ、職員の自信に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員ではない。訓練についても定期的には行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応できるように自治会との協力体制はできている	ホームは2本の川に隣接して位置している。近年水害はないが、過去大雨の際、この地域は水害にあったこともあり、水害・地震等の自然災害を想定した避難訓練の計画と実施が必要と思われる。令和2年11月に火災避難訓練を入居者も参加して実施している。今年度は3月中に訓練を実施する予定となっている。	地域代表の運営推進会議委員等に災害時避難訓練への参加を依頼したり、避難に関する協力体制づくりを相談することも良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員がそのように対応できている	全職員が「認知症の理解と対応」についてオンラインで研修を受け、「その人らしさ」を大切にしたいケアを目指している。入居者の生活歴を知り、尊重した言葉かけが出来るように配慮している。	「プライバシーとは」「誇りとは」等、職員間で話し合う機会があれば、更に具体的な取組に反映できると思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合が優先していることもあるが、希望を聞きながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのひとらしい服装や髪形、おしゃれができるように配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの状況から一緒に調理することはなくなった。食事については、配食サービスを活用している。茶碗拭きなど、できることは職員とともにこなしている	ご飯・味噌汁はホームで作られるが、主菜は調理された料理が外部の業者から届けられ、湯煎等して提供されている。	季節の野菜や果物、郷土料理等、入居者に配慮したメニューの提供も期待したい。また、職員が一人でも同じ食事を一緒に食べることで、味・食べやすさ等の確認も出来、会話も増え、より楽しい食事の支援に繋がると思われた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて支援している。食事形態についても、カンファレンス等にて話し合い、		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日4回の口腔ケアを行なっている。訪問歯科が必要な方は、利用してケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についても、トイレ誘導、必要な介助を行ない、自立に向けて支援している	日中は、介助が必要な方は排泄パターンに沿って全員トイレ誘導し、排泄が自立している人は見守りながら支援している。今年度、「紙おむつについて」職員研修を行い、一人ひとりの特徴を把握して排泄用品を選択することの大切さを学び、日々のケアに活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた対応を行なっている。また必要であれば、主治医へ相談できている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯を決めてしまっており、一日おきに入浴実施し、午前中に介助している	週に3回の入浴を基本としている。入居者の体調や機嫌に配慮して入浴へと誘導している。ゆず湯やしょうぶ湯など、季節を感じ会話が弾むような入浴支援も望まれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの状態に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導にて薬剤師が薬の管理を行なっている。それをもとに服薬介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの状態に合わせて支援することができている。最低限ではあるが、気分転換できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ほとんど外出できていない	現在は、コロナ禍のため、敷地内駐車場に椅子を置いて日光浴をしたり、近くのバス停まで散歩に行く程度の外出となっている。管理者は、コロナ収束後、熊本城・お花見・万日山・熊本新港等へ、入居者と一緒にドライブに出かけたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持金を自己管理できる方はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやりとりは行っていない。面会ができないため、オンライン面会を行っているも利用は少ない。レクレーションとして年賀状は出した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用空間になるように、いつも清潔保持等に努めている	リビングダイニングでは、感染防止のためこまめに消毒し、室温と換気に配慮し、ラベンダーの香りのアロマオイルをたいて、清潔でリラックスできる環境に配慮している。季節の花を飾ったり、塗り絵などの作品も掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、ホールの行き来が自由にできるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように工夫している	住宅地に位置しており、居室の窓から民家の庭や、近隣の人々の様子を窺うことができる。居室の床や壁が木製であり温かみがあるが、備え付けの収納が用意されておらず排泄用品等の置き場に配慮が必要と思われた。居室には、使い慣れた桐たんす、大事なマリア様の像、家族写真、沢山のぬいぐるみ、テレビなど、それぞれが安心できる部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることを生かして、安全に生活が送れるように、支援している		